

## 慌ただしい1月アラカルト

慌ただしく1月が過ぎた。1月アラカルトをコラムとしたい。

トランプ氏が第45代アメリカ合衆国の大統領に就任した。「関税の引き上げ」「ウクライナ戦争の終結」「国境封鎖」と意気高い公約を掲げたが、はたして日本への影響はどうなのか、石破さんの外交手腕は通じるのか、きっと世界はアメリカファーストの彼に振り回されるにちがいない。すでにトランプ政権内で分裂が始まっているとか。

満票を逃したがイチロー氏が日本人初の米野球殿堂入りを果たした。全てにおいて素晴らしい選手だったが、なかでも終身打率3割2分2厘という成績に尽きると思う。終身打率3割は一流打者の勲章であり、日本プロ野球界では26人しかいない。ホームラン世界記録を持つ王貞治は、ホームラン記録を伸ばす余力を持ちながらも、これ以上選手生活を続ければ終身打率が3割を切ってしまうことにこだわり引退を決意したと言われている。ちなみに彼の終身打率は3割1厘であった。将来的に大谷翔平選手の殿堂入りはあるのだろうか？

悲しくもまた兵庫県知事にまつわる自殺者が出了。パワハラ疑惑に端を発する犠牲者は、これで3人目となった。百条委員会員だった竹内議員は、日常の生活まで脅かされ議員辞職を余儀なくされ、醜いSNSの誹謗中傷に屈することになった。兵庫県警が異例にも公表し否定した事実を、公然と拡散したのは紛れもなくN党立花孝志氏であり東国原氏が便乗した。彼らは謝罪はしたが、竹内氏をネット民の標的にしたことへの反省はない。日本社会から誹謗中傷はなくならないのは、こういう人がいるからに他ならない。

福島県郡山市で19歳の受験生が受験当日の朝、飲酒運転の軽乗用車にはねられ死亡するという痛ましい事故が起きた。しかも、はねられた場所は歩行者にとって安全であるべき横断歩道であったと言う。飲酒運転による事故が激減しているわけではない。相変わらず「俺は大丈夫！」と安易にハンドルを握る人が絶えない。交通刑務所の中で猛省する受刑者を報道番組が映し出していたが、飲酒運転撲滅につながる報道ではなかった気がする。

そして、中居正弘氏がテレビと芸能界から姿を消した。誰かが「中居君は魔が差した」と言っていた。いや違う。私は祇園精舎の「おごれるもの久しからず」だと思う。莫大な富・名声・人気を得て、芸能界やテレビでもてはやされ、いつのまにか自らを神の存在にでも思えたのか、何をやっても許されるだろうと言う想いのなれの果てでもある。だから引き際が見苦しい。窮地に立たされた時に、その人の力量や人間性などのすべてが出る。ホームページではなく、会見を開き、自分の想いや反省、謝罪を自分の言葉でしっかりと伝えるべきであったと思う。それがスターとしての最後のけじめになったのではないか。

人はなにげないところで「驕り(おごり)」が出るものだ。脳科学者のN・Nは、とある番組で地下鉄利用について問われたとき、普段は自家用車利用が主流であることだけを言えばいいのに、「私は『レクサス』に乗っているので」と答えた。一瞬、MCが苦笑いした。どうも普段から「皆さんと違うのよ」と福田康夫氏と同じことを思っているらしい。彼女の著書は2冊読んだ。「参考になった」と言う感想にとどめたい。

(丹羽 豊)